

仙台「からだと心のほぐし隊」

(リーダー・猪俣佳子さん)

活動報告②

仙台のマッサージ店 榎高秀「ほぐれ〜」と、アロマセラピーを履修する“メディカルアロマセラピースクール仙台”の猪俣佳子さんより、6月の活動報告が届きました。

グループの名前は「からだと心のほぐし隊」となっているそうです。

■第5回 2011年6月3日(金)

福島・国立那須甲子(なすかし) 青少年自然の家
(避難所)

この避難所は、通常は登山やスキー、野外炊飯など、年間を通して青少年の課外活動を受け入れている施設です。しかし3月11日の震災後からは避難所として運営されており、主に福島原発から避難してきた方々や津波で被害を受けた方の避難所になっています。当初650名程の方が滞在したそうですが、現在は100名余りとなり、**家族単位で各部屋に分かれて入居**している状況でした。もともとが宿泊施設なので、お風呂や洗濯、食事などは今は整えられているようです。また徐々に仮設住宅などに移る見通しがあり、**7月末で当施設の避難所運営は終了するそうです。**

今回はこの施設スタッフにメディカルアロマセラピースクール仙台の卒業生がいることから、調整役をお願いしました。施設スタッフの方と相談し、**1人1時間の事前予約制をとることを試み、予約はほぼ埋まりました。**

指圧スタッフ3名とアロマセラピスト3名で訪問し、30歳代～80歳代までの男女、計16名の方を施術。指圧は座敷に布団を準備していただき施術。アロマセラピートリートメントは2台のマッサージテーブルを持参し、ホワイトボードで仕切りを作って一部屋にセッティングしました。予約制にしたことで、スムーズに施術のご案内ができたこと、また**お1人ずつにしっかり時間を取ることができたこと**、それからある程度プライベートな空間が保たれたことで被災者のプライベートなお話をしっかり聞くことができた点も良かったと感じました。小さいお子様を抱える方や、高齢のご夫婦で避難している方もいらっしゃいました。

避難所生活が2ヶ月半という厳しい状況の中なのに、被災者から出る言葉は施設スタッフや私たちマッサージスタッフに対する感謝の言葉でした。地震発生から当避難所に避難するまでの経緯をお話しされる方、一時帰宅を許可され自宅に戻った時の様子を話される方、途中で涙を流す方・・・。**早く、皆さんが安定した生活を送ることができるように願うばかりです。**

■第6回 2011年6月22日(水)

宮城・東松島市室浜公民館(避難所)

現地は半島の先に位置し、岸壁が破壊された細い砂利道を渡った先にあり、周囲ははまだ瓦礫の山となっていました。当避難所は**小規模施設で、近所の方が滞在**していました。また周辺には津波で押し流された家屋が広がり、ようやく被災を免れた自宅の2階で生活している方々もおられる状況でした。

今回の訪問は、仙台市出身で、東京在住の Hanae さんが当避難地域に知人がおられることで訪問先に決定したものです。現地のマッサージ需要に合わせ、元気アロマ・ネットを介して我々に声が掛ったという経緯の訪問でした。Hanae さんは前日21日から仲間の美容師さんと現地入りし、被災者にエステと散髪を始めており、私たちは2日目に合流しました。

当日はマッサージテーブルを持参しましたが、場所が限られていたため、テーブルは使用せず、**座敷に座布団を広げて即席のマットを作ったの施術**となりました。私たちは**指圧師2名とアロマセラピスト2名で訪問し、お一人あたり約1時間、計17名**の男女の被災者に行いました。

着衣の上から行う全身マッサージを中心に、ご希望を伺いブレンドオイルを用いたハンドトリートメントを行いました。当避難所の滞在者と近隣の自宅に避難している方々がマッサージや散髪をしに来て下さいました。この地域の方々は**強固なコミュニティ**が出来ており、皆さん気の知れた仲間といった様子で、明るく穏やかであると感じました。避難所の近くでは、ホタテ貝に種付けする仕事を再開している方、学校に通う子供のお迎えに行かれる方、隣の町まで歯科治療に行かれる方など、少しずつ以前のような生活を取り戻している様子も伺えました。

またこの日は梅雨入りした、気温32度になる炎天下でしたが、**避難所にはエアコンがありません。**また、今報道されている通り、八工が大量発生している点も**これからの季節、衛生面でたいへん気になるところです。**

(猪俣佳子)

